

千葉県立東葛飾高等学校 創立百周年記念式典 式辞

式辞

菊花香るこの佳き日に、千葉県教育委員会教育長 杉野可愛様、柏市長 太田和美様、千葉県高等学校長協会会長 高梨祐介様をはじめ、多くの御来賓の方々の御臨席を賜り、千葉県立東葛飾高等学校創立百周年記念式典を挙げていただけますことに、心より感謝を申し上げます。

本校は、東葛飾郡内41ヵ町村の請願により千葉県立東葛飾中学校として大正13年4月10日に柏市、当時の千代田村の長全寺を仮校舎として開校し、翌大正14年4月に本校舎が竣工し現校地に移りました。この本校舎は現2号館の校舎が昭和38年に竣工した後も旧本館として使用され、平成6年に解体されましたが、その正面玄関のポーチを現在に残し、私達はパルテノンと呼び習わしています。昭和6年頃、私達が歌い継ぐ「緑葉歌」が作られました。昭和19年の



戦時下には軍需工場への学徒勤労働員で学業が全面的に停止した時期もありました。

戦後昭和23年、学制改革により千葉県立東葛飾高等学校となり普通課程の男女共学となりました。同時に定時制普通課程が併設され、昭和25年に2学級となり、昭和60年から単位制となって現在に至っています。昭和28年には、現在の校歌が制定されました。昭和25年に併置された農業課程は、昭和36年園芸課程に改編、昭和44年に県立流山高等学校として分離独立しました。

昭和40年代の教育改革運動、その改革の炎の中、昭和45年生徒からの強い要望により自由研究が始まります。昭和47年制服制度が廃止され服装自由化となります。定時制は平成12年から服装自由化となりました。平成26年には医歯薬コースが開設。平成28年には中高一貫教育重点校の指定を受け、東葛飾中学校が併設されました。

これまでの卒業生は約3万人を数え、社会の様々な分野で幅広く活躍しています。

東葛飾高校の教育目標は、「自主自律」の校是のもと、確かな学力と幅広い教養を身に付け、他者と協働しながら「未来を切り拓く心豊かな次代のリーダー」を育成することにあります。そして、この東葛が、すべての生徒と教職員が幸せな生活を送れる、ウェルビーイングを実感できる学校であることを目指しています。

生徒の皆さんは、授業を通して、確かな学力と正解のない問いに皆と協働して最適解を導き出す探究力を身に付け、自由研究、リベラルアーツ講座等を通じて、幅広く深い教養を培って来ています。スポーツ祭、合唱祭、文化祭の三大祭や部活動、生徒会活動に全力で取り組み、豊かな人間力を育んで来ています。

「伝統とは形を継承することを言わず、その魂を、その精神を継承することを言う。」

日本柔道の父、I O C委員や高等師範学校の校長を務めた嘉納治五郎氏の言葉です。

伝統というものは、単に過去のをそのまま受け継ぐだけでなく、時代に合わせて変化し、新しく創造されていくものです。本校の歴史を顧みますと、戦後いち早く民主主義教育を取り入れ、教育の機会均等を実現すべく、男女の共学、定時制の併設をしてきました。昭和40年代、教育改革で自由研究の設置と制服制度の廃止がありました。平成には医歯薬コースを開設、東葛飾中学校の開校で併設型中高一貫校となりました。令和にはコロナパンデミックの中、他に先駆けて学校独自のドメインを取得しICTを活用した学習

環境を構築してきました。たゆまず新たな創造を積み重ねてきたのが、東葛の伝統です。

そして、私達が継承する東葛の「自主自律」。生徒の皆さんには、自由の意味を履き違えることなく、自由に伴う責任を自覚して、自らを厳しく律することのできる人になってほしいと思います。そして、クリティカルシンキング、批判的思考力を持ち、自分の頭で考え、判断して、行動できる人になってくれることを切に願います。戦争や貧困による分断のない社会、皆がウェルビーイングを実感でき、誰ひとり取り残されることのない社会、その実現に向けて、エージェンシーを発揮して、よりよい未来と幸福な人生の創り手となってください。社会に貢献する、世界のどこかを支える人になってください。「未来を切り拓く心豊かな次代のリーダー」になってくれることを願っています。

結びに、これまでの本校の発展のために御尽力いただきました千葉県教育委員会をはじめ、地域の皆様、保護者の皆様、卒業生、歴代校長並びに教職員の方々に深い感謝の意を表しますとともに、今後もより一層の御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、本日の記念式典並びに記念事業を推進してくださいました創立百周年記念事業実行委員会の皆様、関係者の皆様からの御高配に感謝と御礼を申し上げます。

創立百周年を迎え、私達本校関係者は、次の百年に向けて、未来を切り拓き社会に貢献する人材を育成し、創造の歩みを進めてまいります。

東葛飾高校の更なる発展と生徒、卒業生の皆さんの活躍を祈念し、式辞といたします。

令和七年十一月七日

千葉県立東葛飾高等学校 第三十二代校長

稲川 一男